

の供養を行った。別名を三夜清水といわれている。

水はあくまでも清く、昔より変らずに湧きつづけている。旅人も村人もこの清水を心の糧とし愛飲したものである。この清水より流れ出る水は、また附近の耕地をもうるおしてくれた。

一説によれば、昔、ここに六光寺と称する寺院があつたとのことであり、その廃滅になる際、寺院内に金無垢の鶏を埋めて、垣を築いたといわれている。この垣を堀る者があれば、病気になるかと伝えられ、だれも堀る人はなかつた。現在も、昔と変らぬ清水が湧き続けている。（「梓衝村郷土誌」より）

井戸を堀れない平藤内 《小 中》

平藤内の屋敷は、古い屋敷で、昔、ここで弓打ちをしたといわれ、矢の根石（石鏃）が出ている。古くから矢部の一族が住んでいて、氏神の稻荷様が祀られている。

この神様は、井戸が嫌いだといわれている、井戸は堀らなかつた。堀ると、火事になるともいわれている。そこで屋敷の東の山裾に共同で井戸を掘って、そこから飲水を肩にかついで運んだものである。

終戦後は、世の中はすっかり変わってしまった、迷信だといって、昭和二十三年頃、矢部、古川両家で二ヶ所に二〇尺以上も深く井戸を掘ったが、ついに岩盤には突き当らず、木のような植物の腐った土が出たきりで、飲用水になるような良い水はついに出来なかつた。

（話者 古川明）